

熊本支部報

日本山岳会熊本支部

NO. 1 1 平成13年3月31日 発行 日本山岳会熊本支部 紫本市二本木3丁目3-8(田上方) 1096)324-1200 印刷秀英印刷

日 次			
支部長随想	1	会務報告	17
	3	『県境の山』例会報告	20
	15	後 記	31

支部長就任にあたって

支部長 工藤 文昭

熊本県で開催された第54回国民体育大会の登山部門は、役員の皆さんの献身 的な努力と会場となった町村挙げての取り組みにより、大成功のうちに終わるこ とができました。これで私の責任もどうにか全うすることができたので、これか らは山登りと野菜作りに… 晴耕雨読の生活に入れると思っていましたが、阿蘇 高校に口説き落とされて、昨年4月から週3日間、非常勤講師として勤めること になりました。次いで『国立阿蘇青年の家』から週2回の講師依頼があり、以前 からの柵(しがみ)もあって引き受けざるを得なくなりました。また、国体登山部門 を主管した熊本県山岳連盟の役員改選で理事長に推挙され、さらに日本山岳会の 熊本支部長にも就くことになりました。これは、前支部長の本田さんが長期にわ たりご苦労されたことを知っているだけに、次期支部長に推挙された時は、お断 わりすることができませんでした。教員を退職したら、のんびりとなど密かに第 二の人生プランを描いていたのですが、とてもそんな気儘な生き方ができる状態 ▶ では無くなりました。阿蘇高校で授業のある日は、いつも眼前の阿蘇五岳の姿を 暫く眺めるのです。阿蘇の山々は、一日一時たりとも同じ姿ではなく、見飽きる ことがありません。阿蘇高校も青年の家も、阿蘇の大自然の懐深い位置にあり、 正面に気高い阿蘇の霊峰を仰ぐことができます。この山々に対峙し、その霊気を 受けると、私の身内に計り知れない力が湧いてくるような気がします。それから 徐に授業に入りますが、このとき何とも言えない前向きな姿勢の自分を見て喜び を感じます。阿蘇の子供たちは、まことに自然で素直で、私のやる気を引き出し てくれます。のんびりと自由気儘に過ごすより、この子供たちと一緒に勉強しな がら得る喜びは、私に計り知れない生きる喜びの場を与えていただいているよう です。まだ、支部長としての役目は総会や支部長会議などに出席しただけですが 支部内のことは、田上事務局長や本田前支部長に全ておんぶされているのが現状

です。全国的には、山岳会と山岳連盟の役員を兼任している支部長が数名おられると聞いていますが、私の場合は両方とも新任一年目で不慣れなことも相まって任務の遂行ができていないようです。全国25支部の中でも、支部長は会員番号5000代より若番の経験豊富な方が勤めておられますが、私は下から2番目の若造です。しかし、経験不足のことより私の場合は、任務に取り組む姿勢に問題があるように思います。昨年12月の支部長会議の際、各支部活動状況を見ると全国最小規模とは思われない本支部の活動ぶりは、まことに秀伐なるものがありました。ここまで熊本支部を育てていただいた歴代支部長、事務局長はじめ会員の皆さんのご努力を無駄にすることなく、さらに発展できるよう私も誠心努めますので、一層のご協力をよろしくお願いいたします。

新支部長に期待する

5421 本田誠也

やっと支部長を交代することができました。私は1992年(平成4年)から8年間、支部長を務めさせていただきました。その前の常任委員、副支部長在任期間を通算すると、22年間も支部の運営に携わってきたことになります。適任者が居なかったわけではないので、あまり長くやりすぎたと思いますが、それは1997年の支部設立40周年まではと続けてきたのです。しかし、それ以後も引き継いで下さる方の都合で、さらに延びてしまいました。そして、1999年の第54回熊本国体登山部門の総括責任者として、寧日なき活動を続けられた工藤文昭さんを口説いて、やっと引き受けていただいたのです。その工藤さんも長年に亘る教職をリタイヤされたものの、請われて阿蘇高校、国立青年の家の講師となり、さらに国体後の熊本県山岳連盟の理事長に就任し、以前にも勝る多忙の中に身をおいていられます。しかし、登山家として、また組織のリーダーとして卓越した資質を持つ工藤さんに、我々は大きな期待を寄せているのです。

工藤さんは、世界七大陸の山を踏破した素晴らしいバイタリティの持ち主でもあります。私の勝手なお願いかもしれませんが、来るべき支部設立50周年は是非とも工藤さんを中心に、小支部ながら『山椒は小粒でもピリリと辛い』存在感をしっかりと示していただきたいと思うのです。その頃、私は80才になっている筈ですが、足手まといにならないよう支部会員の皆さんと共に、頑張って参りたいと念願しています。最後に私の好きな F・Sスマイスの言葉を一つ…

『登山のたのしみは、年齢と経験によって調整できる。年がすすむににつれて、たのしみは多くも少なくもなりはしない、別個のものになるのである。最初のとびはねる焔は消えてしまうが、火は消えやらず燃え続け、実際には変わりなくあつい…』 (山崎-1957.6朋堂より)

会員随想

西暦2000年、ささやかな山旅を顧みて

新しいミレニアムの始まりという千載一**遇**の好機に恵まれて、はや一年が経過し幸いにも21世紀の幕明けにも居合わせることができました。

この1年を顧みるとき最も申し訳ないと思うことは、本田前支部長が支部設立45周年記念事業の一つとして提唱され、平成10年秋から月例会として実施している『県境の山』踏査に1度も参加できなかったことです。平成7年夏の開腹手術の影響で、いまだに食事のコントロールが難しい事情もあって、早朝の出発や不規則な食事などで体調を崩しやすいものですから、いまのところ、全くマイペースの山行に限られているのが実情です。例え九州内の山であっても遠出の場合には、前日の夕方前には登山口に近い宿に着いて、翌日の山行に備えるようにしています。言わば『片肺飛行』とでもいう山行です。それでも、昨年は家内とともに、48回ほど山々を訪ねることができました。西暦2000年の元旦には開聞岳の山頂に立ち、ミレニアムの幕開けを祝福することができました。

4月下旬、雁俣山にカタクリの花を訪ねたとき、早朝の寒さに動きが鈍り人影を見ても道端にじっと蹲っている『ヒメネズミ』を発見し、うまくビデオに収めることができました。また、5月の連休、夏休み、11月の3回に亘って霧島を訪ねました。その山麓で、すっかり常宿になってしまった硫黄谷温泉のホテルをベースにして、いくつかの山歩きを楽しみました。なかでも湯之野から新燃岳に向かう深い樹林帯の小道は、人影も少なく爽やかな空気に満ち溢れた緑陰の山道が続き、私たちの気に入りのコースの一つとなりました。

盛夏、甑岳へ向かう雑木林では、いかにも親子の愛情にみちた鹿の子連れに出 会い、夢中でカメラを廻しました。11月、恒例の霧島行では20数年ぶりに北 九州の知友人夫妻ら4組8人で、韓国岳登山を楽しむことができました。

このように私たちの山行は、相変わらず一山一山、麓から山頂までの道程で山の霊気にふれ、花々や小動物たちを愛で、渓谷のせせらぎや小鳥の囀りに耳を傾け、紅葉、雪景色など季節の移ろいに心ひかれ、そして森林浴を楽しみながら、一つ一つ心の中に新しいケルンを築き上げてゆくような、静観的な歩き方に終止して来たように思います。加齢とともに、体力の衰えはどうしようもありませんが、新しい21世紀に向けて、心だけは青春の気概を忘れず、山への夢を抱き続けて行きたいものと願っています。

延 真 選 選 選

21世紀初めの開聞岳

10186 神谷 文子

このところ数十年来、正月ともなれば指宿温泉『秀水園』に泊まり、元旦には 開聞岳の山頂に立つことが、私たちの年中行事の一つになってしまっています。

そんな中で、今年は珍しくも次女夫妻が運よく休みがとれて、小学1年生の孫清尊を連れて付き合ってくれました。私たちにとって、21世紀の幕開きはまことに楽しいものになりそうな予感がしました。暮れの30日から家を出た私たちと、31日に旅館で落ち合い2000年最後の夜、5人揃っての楽しい夕食会となりました。2001年の元日は、雲一つない快晴に恵まれ暖かい最高の登山日和となりました。ロビーで少々ノンビリし過ぎて、10時55分にやっと出発しました。二合目からの深い樹林帯が少しだけ開けて、池田湖や長崎鼻が樹間に望まれる四合目に着いて小休止。それから火山礫でザラザラの難路となりますが、清坊は益々元気です。何か被写体を見つける度に、夢中でカメラを廻す主人に付き合っているうちに、先行する3人に次第に差をつけられてしまいました。

七合目をこえる辺りから、低い灌木林越しに深く澄み切った紺碧の海が広がり遠く南の島々が望まれます。ぐるりと廻りこんで九合目になると、薩摩半島の海岸線の白い波しぶきが印象的です。標高が高まり冷気が身に沁みる頃、山頂に着きました。『おじいちゃん! おばあちゃん! 遅いなあ…』自慢げな清坊の声が響きます。私たち四人が遅くなった昼食に舌鼓をうっている頃、早くも食べ終わった清坊は、一人で山頂の大岩を攀じ登っては下り攀じ登っては下りして大はしやぎでした。

昨年暮に騒がれた開聞岳の水蒸気爆発も、すつかり収まっていて、山頂の一部 に立入り禁止の立札が見られるだけです。

山頂表示板の前で全員の記念撮影。さらに清坊は様々なポーズで特別撮影。将 来の彼にとって、きっとよい記念になることでしょう。

このようにして私たちの21世紀が始まりました。今後も体力の続く限り、主人ともども私たちなりのささやかな登山を続けたいものです。

逆さまな話

8981 中村 東二

冬の西瓜、トマトや、夏のいちご、みかんがスーパーにならぶ時代に『矢張り食い物は旬(しゅん)でなけりゃ…』と云う古代人?も少なくなり、日常の生活現象で逆さまなことが、ごく当たり前なことになってしまった昨今である。

と云うことで始めた『冬のプール』の話である。加齢現象の一つなのか膝が痛みだし整形外科に通院して、やや軽快したが、日課のウオーキングに少々支障があるので、今はやりのプールでの水中歩行と相成った。

数多の女性に囲まれて約2時間の水中歩行は、浮力のため膝に負担がかからず 四頭筋の鍛練ができる。水圧のため腹式呼吸になるので、思った以上に有酸素運 動の効果があることが判った。クロールやバタフライなどのストロークは陸上の 疾走と同じで、無酸素運動でしかないとのインストラクターのご託宣である。

着ぶくれから開放され、水着一枚の水中のカリキュラムは、四肢を思い切り伸ばせて新世紀の冬の風物詩となった。

2000年、この1年

4943 馬場 猛

造成工事中から係わってきたゴルフ場が開場30周年を迎えた。記念誌発行の 責任があるが、10周年、20周年の頃に比べ、クラブの財政事情がかなりきび しい。それだけに『無い袖』を絞らなければならず関係者の会合も多くなった。

その合間を縫っての山行は、久住山、由布岳、市房山と近くの里山歩きを合わせても29回。もはや雪山に挑む自信はないが、スキーを始めて50年、妻の千代子も40年の節目になるので、何とかしてスキーには出かけたい。というわけで最近は観光半分で、まだ行ったことのないスキー場巡りを心がけている。

しかし、いざ行くとなると空の便のよい北海道や中部地方になり、雪質のよい東北は蔵王と磐梯だけしか行っていない。いまは直行便ができて便利になったので、昨年2月には花巻空港から安比(あが)高原へ、3月は青森空港から鰺ヶ沢へと出かけた。白一色の風景は物足りないが、双方とも初めて訪れたことでもあり飽くことなく眺め続けた。『安比高原』は、ホテルもゲレンデも気に入った。頬を刺す飛雪が痛い。粉雪というより粒雪、それも強風で、上から下から叩きつけてくる。『安比マスク』という物の有難味を知る。

オンシーズンというのにスキーヤーの数が少ないのは不況のせいか…

鰺ヶ沢は、地元の人々が津軽富士と呼び、神が宿る山と尊崇する『岩木山』が美しいというより神々しく眺められる。毎日、拝みながらのスキーは身も心も引き締まり、おかげで無事に帰れた。安比も鰺ヶ沢も、ゴンドラリフトは老人割引があり、小学生並みの料金というのが気に入った。ナイター券も半額というので求めたが、ゲレンデは昼間とは別のところで、暗い上に吹雪かれので1回きりで止めた。もっとも、広いゲレンデにたった二人だけということもあったが…

新年は、もう少しマシな登山をしたいし、スキーも雫石か、鬼頭(ホルヒラヤ゙) を予定しているが… 果たしてアンヨの具合がどうか…

§ § § § §

山への想い

8605 門脇 愛子

ある画廊喫茶店に《想う》と題する一枚の絵があります。それには一足の山靴が描かれているだけでしたが、何となく心ひかれるものがありました。その絵を見ながら香り高い珈琲を啜っていると、2000年の山のことが思い出され、また今は登ることができなくなった山の思い出に浸ってしまいました。

昨年は、20数年来続けてきた毎年1月4日の登り初め、その年の大晦日の登り納めの金峰山登山が、一昨年12月の骨折事故で途切れてしまいました。骨折が直ってからも登山への再起は遅れ、里山は幾つか歩いたものの、金峰山は一回きりに終わりました。テレビで山の映像を見たり、旅行先で山々を眺めたりする度にしきりに、かって登った山々のことを想うこの頃です。でも、山は山頂に立つ時だけが素晴らしいのではなく、山麓を歩く時でも、眺めている時でも、私に湧き上がるような感動を与えてくれました。

2000年の10月中旬、秋の上高地を歩く機会がありました。毎年、夏山登山として行っていた北アルプスの山々を、どうしても眺めたいと、いつもの山仲間と奥様も同行されて実現しました。夏の上高地は何度も訪れていましたが、秋は初めてでした。この時期、ウイークディなのに夏に劣らぬ人出にびっくりしました。お天気もあまり良くなかったのですが、七分ほどの紅葉はいまいちというところ… それでも金色に輝く落葉松は例えようもない美しさで、来てよかったと感動しました。そして、その夜の雨は翌朝、明神岳の初冠雪を見せてくれ再度感激しました。穂高連峰は厚い雲の中で残念ながら、その姿を見ることはできませんでした。しかし翌日、安曇野から抜けるような青空のもと、白銀に輝く北アルプスを遠望した時、私の山への想いは満たされた気持ちでした。

私の2000年の山

9649 鶴田佐知子

2000年の山行は、ニュージーランド、ミルフォード・トラックのトレッキングで始まった。1月21日、ニュージーランド南島のテ・アナウダウンズから船に乗り、テ・アナウを渡ったグレートハウス桟橋からミルフォード・トラックは始まる。2人のトレッキングリーダーと40名のトレッカーは、4泊して54kmのコースを歩いた。フィヨールドを流れ落ちる無数の滝、美しい苔、地衣類、木性シダをはじめとする様々なシダ類、南極ブナの巨樹など多雨林帯の別世界が展開する。2月は、久しぶりに阿蘇南外輪山の駒返峠から地蔵峠までを歩いた。外輪山の最高点、大矢野岳辺りでは霧氷がキラキラと輝いて美しかった。

3月は、北外輪山のツームシ山から鞍岳を歩いた。鞍岳の下りでは黄色のマンサクの花が美しかった。3月末には、天草の観海アルプスを歩いた。鋸岳、白岳で

は、不思議な植物ヒモズルが、湿地と林の境界付近でスギの木にながく巻き付い ているのを見た。4月はじめには日本山岳会の科学委員会山行で、よくお会いす る奈良さんが友人二人と来熊された。永谷誠一さんのお世話で国見岳に登り、そ の夜は平家荘で友誼をあたためた。翌日は**球磨川水源**まで足をのばして美味しい 湧水を呑み、帰路に白蔵峠(レシモウヒシザ) から三方山に寄り道した。4月16日は、 久しぶり熊本支部の宿泊例会で市房山に登った。前日、斎藤前会長他2名の京都 支部の方々を熊本空港に出迎え、五家荘、五木を縦断して水上村湯山の民宿『川 原荘』に入る。その夜は賑やかに懇親会。翌日、杉の大木が立つ市房神社の参道 を歩き、神社裏の急坂をゆっくり登った。5月はじめは、大分県宇目町藤河内か ら木山内岳に登った。私にとって初見参の山で、美しい観音滝とシオジの林が特 に印象的だった。5月14日は、北外輪の立山坂を国造神社の裏手から登り、ハ ルリンドウ、オキナグサの群生に出逢った。6月はじめは霧島東神社より高千穂 峰へ。下旬には東京の奈良さん、盛岡の阿部さんの案内で、念願の早**池峰と焼石** 岳、栗駒山に登ることができた。所用で上京していた私は、6月23日、皆と仙 台で落ち合い、岳の宿坊『大和坊』に泊まる。翌朝、早池峰神社で登山の無事を 祈り、河原坊から登り始めた。アズマギク、キスミレの仲間、ミヤマオダマキ、 シオガマの仲間、ナンブイヌナズナなど花、花、花に歓声をあげながら登る。 巨岩ゴロゴロの山頂の先には残雪が光っていた。小田越への下りでは少し早目の ハヤチネウスユキソウの群生に出逢えて満足。オサバグサ、タケシャラン、ズダ ヤクシュなど久しぶり、特にウラジロヨウラクのピンクの花が美しかった。 下山後、一日おいて25日には中沼登山口から焼石岳に登った。中沼とツブ沼分 岐辺りから残雪が多く、雪が解け始めた辺りにはミズバショウの大群生が見事、 久し振りにシラネアオイにも出逢った。姥石平近くでは、ヒナザクラが咲いてい た。下山の雪道では、サンカヨウの白い花も見ることができた。翌26日は栗駒 山に登る。数年前の秋の紅葉とは全く違って、須川温泉の上はウラジロヨウラク の大群生、湿地帯にはワタスゲが風に揺れていた。ここも残雪があり、ヒナザク ラも咲いていた。なお、今回の東北三山は、凡て一等三角点の山だった。

7月始めは九州脊梁山地の黒峰、トンギリ山へ。そして月末にはブータンのトレッキングを楽しんだ。ここはパロ空港がすでに2400mの高地、歩いた距離は短かったが3500m辺りから、一昨年大姑娘山に行った時、BCの周りに沢山あった黄色いシッキムサクラソウの大群生に出逢う。それに、矢張り黄色のクリンソウの仲間が凄い。ここからチベットの大高原にかけて、この花は咲いているのであろうか。キバナノアキギリの大きいのや、真っ赤なタデ科の仲間なども見る。残念なことに、4000m以上辺りからのブルーポピーはすでに花期が終わり、葉と実のみだった。山里の棚田の風景は、一昔前の日本を見るような懐かしさを感じた。今度ブータンに行って初めて知ったのは、ブータンの人々に心から愛され慕

われた西岡京治氏のこと… 1992年にブータンで亡くなるまでの28年間、 農業指導に生涯を捧げた人である。ブータンの農業は、いま花開いたようで美し かった。心豊かな仏教王国ブータンは、世界の宝だと思った。

8月末は、永谷さんらの山想グループと南アルプスの鳳凰三山を歩いた。27日 夜叉神峠登山口から登り始めた。夜叉神峠小屋付近は、ヤナギランの花がピンク の波のよう… タンナトリカブト、キオンの花、花、花の道を苺平へ。御室小屋 を過ぎて急坂を登りきると、花崗岩のザラザラの岩陰に美しいタカネビランジ… 薬師小屋に下って、久し振りの山小屋泊まりを楽しむ。28日、雲はあったが日 の出の美しさを見て出発し、薬師岳、観音岳、地蔵岳と縦走する。地蔵岳では、 恐る恐るオベリスクの基部まで登る。ここから南アルプスの盟主、北岳の八本歯 の登路がよく見えた。もう10年以上も前に、あれを登ったなあ…と感無量。 それからドンドコ沢を下る。ホウオウシャジン、ミヤマシャジン、ヤナギラン、 タマガワホトトギスなど、沢山咲いている鳳凰小屋の前で昼食。長いドンドコ沢 の道程でレンゲショウマの花と出逢い、17時少し前に青木鉱泉に着いた。

最近では、最も手応えのある充実した山行となった。

9月上旬は、牧の戸峠から長者原に秋の高原の花を訪ねて遊ぶ。

中旬には、東九州支部が主管する全国集会に参加して久住山に登った。久し振り で逢った旧知の人々と、お喋りしながら赤川に下った。10月は、錦秋の上高地 へ… 山研に2泊して焼岳に登り、ミニ発電所を見学したりした。

11月は、宇士半島の三角岳と、緑仙峡から小川岳登山。

そして12月最後の〆めは、シェルパ阿南のグループと1212登山。

即ち、12月12日12時12分12秒に、南外輪山の大矢岳 1220mに登った。

会費も1212円でまことにグー!だった。

2000年も感謝、感謝の山行だった。

『奈須新道』に寄せて

12909 永谷 誠一

昨年、11月25日に向坂山~小川岳ルートの開通を記念して、関係者一同と 歩き、喜びを分かち合いました。これによって黒峰から小川岳を経て向坂山、そ して霧立越へとつなぎ椎葉までのルートが貫通しました。平成9年に、清和村の 沢津部落より黒峰へ、赤木部落よりの県界ルートを探索し、地元の奈須 昇さん (緑仙峡 清流館支配人)の案内で、栗藤から黒峰への登路を開くことができま した。次いで、舞岳部落から鞍岡の小川部落に通じていた古い峠道を辿り、尾根 上から小川岳への尾根筋のスズタケ伐開作業を進めていましたが、遂に平成10 年10月10日開通することができました。作業出動7回、延参加人員40名が これに当たりました。この夜は清流館で開通の祝宴が催され賑わいました。

そして平成11年には、向坂山〜小川岳間の伐開に取り組み、都合6回、延36 名がこの作業に関わりました。県境尾根に忠実にルートをとり、先発が鎌や鉈で 切り開いたあとを、刈払器で整備してゆく方法で進みました。道を開くことの大 変さをつくづく痛感したものです。この新ルートと霧立越を結ぶ稜線は、約30Km におよびます。途中に水場(舞岳ルート取りつき点、五ヶ瀬川源流、水呑の頭、 扇山小屋)もあり、快適な縦走を楽しむことができるでしょう。インターネット での紹介や、山岳雑誌等にも掲載して、全国の登山愛好者にPRしたいと考えて います。この新しいルートには、当初から積極的に参画され実働班としても中心 的な活動をされた、奈須さんのご努力に敬意を表して『奈須新道』と名付けまし た。そして、愈々次は向坂山~三方山のルート造りです。3月の雪解けを待って この長丁場に取り掛かります。これが通じると、以前に拓いた遠見山から切剥、 三方山のルートに接続し、緑川源流を囲む循環ルートが完成します。そのうえ、 九州春梁山地の主稜線である向霧立越と、霧立越のルートが結ばれ、長遠で多様 なコースが引かれることになります。これは、九州脊梁山地全域にわたる広域な トレッキングマップができあがることになります。この夢の実現に向けて、これ からも支部会員の皆さんの一層のご協力をお願いいたします。

キャンプ場での出来事

11771 加藤 功一

夏のお盆休みの時期には、いつも私がこれまで勤務(NTT) していた所へ、家内と二人でテントを持って出かけ、名所旧跡を訪れたり、その地域の山に登ったりしています。一昨年は鹿児島方面へ… 大隅半島から薩摩半島へ出かけました。昨年は長崎方面へ出かけ、雲仙の国見岳、妙見岳、普賢岳と、長崎市の岩屋山、舞岳に登りました。これは雲仙キャンプ場での出来事です。

■ 雲仙・普賢岳山麓には、第一、第二、第三と大きなキャンプ場が三つもあります。まず第一駐車場に入りました。設備も立派に整っているキャンプ場なのですが、夏のシーズンというのに誰一人いません。テント一張り見当たらず、広い駐車場にも車一台、駐車していません。車の轍が黒々と残っているのみで、何となく気味悪い雰囲気です。ここに駐車する気にならず、第二駐車場に移動しましたが、ここにも一台の車もいないのです。誰も居ないというのは、何となく寂しい気もしましたが、日も傾むきかけており、昼間三つも山に登って疲れていたのでここにキャンプすることにしました。テントを張り夕食を済ませ、早目に寝たのですが、深夜12時を過ぎた頃、下の駐車場に車が集まりはじめたのです。そして私たちの車を見ている様子です。車をどうにかされるのではないかと気が気でありませんが、そのうち足音がして近づいてくる気配です。今度は私たちのテントを窺っているようです。息を凝らしてじっとしていたら、暫くして立ち去りま

した。やれやれと、ホットしたものですが、それからがドラマの始まりでした。 突然、雷鳴が轟いたかと錯覚した "ダダダダーッ!と凄い音… 何と車の暴走の始まりでした。第一駐車場と第二駐車場を行ったり来たり… ギギーッとスピンする音。山間の、森閑とした場所なので山々にこだまして凄い音が響く…もう眠れるどころではない… 次から次へと車が来ては去って行く… 延々と続けられたが、夜明け前には居なくなりました。一時はどうなることかと心配しましたが、それからやっと少しはウツラウツラしたことでした。これで、このキャンプ場に誰も来ない理由が分かりました。多分、地元の人たちは暴走行為があることを知っているので、利用しないのだろう…と。警察も暴走行為は知っていると思いますが、町の中でやられるよりはと黙認しているのではないか… それにしても暴走行為を目前に見たのは初めてで、怖いながらも珍しい経験をしました。

次の日は長崎市の岩屋山と舞岳に登りましたが、昨夜の出来事で寝不足と真夏の暑さで、バテ加減だったことが記憶に残っています。

噴火後の雲仙普賢岳に登る

10240 長田 光義

平成2年11月、雲仙普賢岳が198年ぶりに噴火して以来、付近は警戒区域に指定され、立ち入り禁止になっていました。私の住む天草からは、有明海を隔てて火砕流の白い煙が望まれ、山容が日毎に変化してゆく様子を眺めたり、時には降灰に見舞われたりしました。平成7年春に、火山活動の沈静化が見られてから、再び雲仙を訪れることを願っていました。そして、平成10年4月に普賢岳への登山が解禁されました。それで1年後の平成11年5月2日に、親子3人で出かけることにしました。本渡市を7時半に車で出発し、鬼池港からフェリーで長崎県の口之津港へ… 島原半島を縦断する国道389号線を走り、国道57号線に合流して雲仙温泉街を通りぬけ、9時43分に池の原駐車場に到着しました。

階段を上がること 4 0 分で仁田峠駐車場に着きましたが、連休のことでもあり 駐車場は満車の状態でした。ここから時間短縮のため、ロープウェイで妙見岳へ … 約2 5 分で国見岳の山頂に立つと、眼前に普賢岳とその後ろに平成新山が頭 を出しており、右手には火砕流の跡の白い岩肌が光って見えます。急な下り10 分で、あざみ谷分岐に出て普賢岳の登りにかかります。折から下りてくる登山者 たちと道を譲り合いながら、やっと11時45分に、普賢岳(1359m)の山頂に立 ちました。ここから先は、溶岩ドームの平成新山(1486m)まで急角度で赤茶けた 岩稜が続いており、立入り禁止になっています。山頂は多くの登山者で賑わって いましたが、早速昼食の包みを開きました。とてもよい天気で海岸線まではよく 見えたのですが、遠くの方は模糊として霞んでいました。

昼食後、平成新山をバックにして記念写真をとり、暫くは岩上に寝転んで時を

過ごしました。12時30分、下山にかかり、あざみ谷を通って13時30分に仁田峠に 到着。さらに靴擦れの足を引きずりながら、14時35分、池の原駐車場に着きまし た。帰路、雲仙小地獄温泉の国民宿舎『青雲荘』で入浴し、16時10分、口之津港 に着きました。しかし、多数の車がフェリーの乗船待ちをしており、結局5時間 も待たされて、深夜の22時に、やっと本渡市の自宅に帰り着きました。

因に雲仙岳は、普賢岳、国見岳、妙見岳などの山域の総称で、昭和9年に国立公園に指定されました。それまでは温泉岳と書いて『うんぜんだけ』と呼ばれていたことは、よく知られたエピソードです。 $W \cdot ウェストン師の『知られざる日本を旅して』の英語版にも《Unzen-dake》と紹介され、頂上からの眺めが詳しく述べられています。<math>100$ 年も前に、私たちの身近かな山に登っていることを思うと感慨深いものがあります。

鳳凰三山縦走

10432 池崎浩一

平成5年7月、熊本電友アルコウ会の特別例会で富士山に登った帰り、本田誠也さんと二人で、大樺沢の雪渓を踏んで北岳に登った。その時、初めて野呂川を隔てて指呼の間に連聳する鳳凰三山の重厚な山容に接した。以来その姿、形は私の脳裏から離れなかった。それから7年、75才になった今では、もう登ることは無いだろうと半ば諦めていた。ところが、かっての電電公社時代の古い山仲間5人と共に、縦走する機会に恵まれた。

鳳凰三山は、薬師岳、観音岳、地蔵岳の総称で、何れも2800m 前後の高さだが 北岳、甲斐駒ヶ岳と共に、南アルプス北部の山々では最も人気のある山である。

夫々の山頂からの眺めは素晴らしく、八ヶ岳から南アルプスの山々はもとより遠く北アルプスまで一望できる。三山とも山頂部は花崗岩が風化した白砂の中に岩峰が屹立し、そして根強く生きるハイマツの緑が似合う山である。

今回、私たちは夜叉神峠登山口から登り、夜叉神峠小屋、薬師岳小屋と泊まりを重ね、縦走して白鳳峠から広河原に下る2泊3日の山旅であった。

◇7月20日(木) JR甲府駅前から夜叉神峠登山口まではタクシーで行く。 午後は雨になりそうなので、小憩後すぐに登り始めた。のっけからカラマツ林 の中の急登には参った。ミズナラ等の広葉樹林帯を登っているうちに『五本松』 に着いた。ほどなく夜叉神峠小屋に着いたが、標高差にして370m足らずなのに、 2時間もかかってしまった。予報通り昼過ぎから雨になったが、小屋に着いた後 なので幸い濡れることはなかった。

◇7月21日(金) 早朝6時前に小屋を出る。クマザサ帯を登って行くと、林相はカラマツからツガ、そしてシラビソ林に変わる。若干のアップダウンはあ

るが、杖立峠までは比較的緩やかな登りである。苺平から南御室小屋までも勾配が少ない歩きやすい道だった。南御室小屋には、筧から豊かな清水が流れ落ちており、天水が頼りの他の山小屋とは違った雰囲気だった。しかし、有料の水洗便所がずらりと並んでいるのには驚いた。南御室小屋からは、針葉樹林帯の中につけられた勾配のキツイ登りが続く。樹林帯を抜けると白砂青松の岩礫帯となり、登り詰めたところが砂払岳の山頂。耳二つの薬師岳は眼前にあった。眼下の小さな鞍部に今夜の泊まり場、薬師小屋の屋根が見えた。小屋にザックを置き夕食までの一時を、カメラを携えて薬師岳山頂に登る。目の前に北岳の威圧的な山容が迫り、大樺沢の雪渓も、八本歯のコルも、そしてバットレスの岩稜までも、望見することができた。その夜、小屋には100人近い宿泊者があり、文字通り肩を寄せ合って一夜を過ごした。

◇7月22日(土) 今日も6時前に出発する。

昨日登った岩礫帯の斜面を登り、再び薬師岳の山頂に立った。朝の澄み切った大気の中の眺めは、また格別だった。眺望を楽しみながら、なだらかな稜線を漫歩する。観音岳までは花崗岩とハイマツの尾根道、約40分ほどで巨岩が積み重なる観音岳の山頂に着いた。多くの登山者で賑わっていたが、折から富士山が雲間から姿を現し思わず快哉を叫ぶ。ここから露岩とハイマツを縫うように下る。長い鞍部から登り返すと、赤抜ヶ沢の頭に着いた。正面に地蔵岳のシンボル、オベリスクと呼ばれる大岩塔が屹立しており、ただ、ただ、自然の造形の妙に感じ入るばかりである。ザックをハイマツの下に置き、空身で地蔵岳を往復する。下り切った広い鞍部は、『賽の河原』と呼ばれ小さな石地蔵が並んでいる。岩場を登り、地蔵仏と呼ばれる(オベリスク)の基部を廻ってみた。二つの巨岩の間のチムニー状のところに、登攀用のロープが下がっているのが見えたた。

『君子危うきに近寄らず』…老兵の私たちは、静かに岩場を離れた…(中略)… 白鳳峠から広河原林道への下りは、噂にたがわぬ悪場の連続だった。峠からす ぐガレ場となり、巨岩累々たる岩石道が終わると、勾配の急なシラビソの樹林帯 となる。急崖の悪場には、梯子やロープ鉄鎖などが取り付けられていたが、雨水 に抉られた山道は至る所で崩壊して甚だ難渋した。2時間半もの間、ほとんど休 まずに下り続けた。過労のためか足元が定まらず、必要以上に集中力と体力を消 耗して、林道に出た時には本当にホットした。バス停に着くと、全くタイミング よく「すぐバスが出ますよ」と云われて慌てて飛び乗った。おかげで予定より早 く、午後5時前には芦安温泉に着くことができた。



最近読んだ山の本

6659 田上敏行

久々に山の名著に巡り会えたと思ったのが、田口二郎著『山の生涯-来し方、 行く末』(1999…襁糞)だった。まだ上巻しか読んでいないが、それでも行間に織り 込まれた豊かな知識の連なりに、読みすすむにつれて次第に本の中に引き込まれ てゆく… といった風で、あらためて筆力というものを感じさせられた。上巻の なかでは、古き良き時代の登山記録である《スイス時代》が面白かった。 戦前、戦中、ヴェツターホルン北壁初登攀をはじめとする数々のアルプス登攀で 名を馳せた筆者の若き日の溌剌とした登山の様子が、生き生きと描かれ読みなが ら「やっぱりアルプスはいいなぁ…」と何度も思った。実は10年ほど前に、私 は田口さんにお目にかかったことがあった。それは、年次総会のあとの海外遠征 基金の会議の席だったと思うが、たまたま私の席の前に田口さんが座られ、一言 二言ご挨拶をした覚えがある。たったそれだけのことなのだが、かねてお名前を 知っていただけに、ひどく緊張し感動した記憶がある。とにかく、60年にわた り書き残された文をまとめた見事な著作集であり、この本の中には、まだ沢山の 宝物が隠されているような気がする。ただ不思議なことに、これだけ私を感動さ せた本が、聞くところによると僅か300部の発行部数にもかかわらず、まだ残 部があるとのことである。良き登山家は、同時に良き読書家であったJACの伝 統も様変わりしたのであろうか… 「山岳95年」の本書の図書紹介の末尾に、 村木元会長が述べておられるが、「この文を書き終えたいま、少しでも大勢の方 に読んでいただきたいという思いが募るのである… 体の健康とバランスをとっ て心の健康には充分役立つ筈である」には、全く同感である。

ついでに、数年前に刊行され洛陽の紙価を高めたとされた、同じ田口二郎著の『東西登山史考』(1995-微糖) もここで紹介しておきたい。いまでも時々本棚から取り出すことがあるが、何度読んでも、その度に新しい発見をする本である。小さい文庫本の中に東西の登山史を、JACの発展を織り混ぜながら描いた見事なエツセイである。凡そ会員たるものは、座右に置いて必ず目を通すべき本であろう。特に当支部のように地方からJACに入会した人たちには、本会のことを知ってもらうためにも、ぜひ目を通してもらいたい本である。

もう一つの本は、横山厚夫著『山麓亭百話』上巻、中巻…下魁利…(2000-仙鶴)である。本の帯に"登山の愉しさが、よりふくらむ百のエピソード"とあるように著者の豊富な知識が、洒落た文章で綴られたエツセイで、文句なしに楽しめる本だった。山にまつわる面白い話題が、次々と現われて読み飽きることがなく一気に読んでしまった。何となく一昔前に、夜の山小屋の炉端で酒を呑みながら、物知りの山の先輩から色々と面白い話を聞いている… といった感じの本だった。

それにしても、この博学ともいえる著者の豊富な知識には、私のように浅学の輩はただ頭が下がるばかりである。同じ著者の『ある日の山、ある日の峠』(1998-山鶴) も同じように楽しめた本だった。低山歩きの名人とされる著者が「高くもなければ、ことさら険しくもないが、しかし楽しく面白く登ってきた山々のことを書いた」と云うように、いかにも日本の山登りの原点のような登山エッセイである。最近の私もほとんどが低山歩きである。山の歩き方では著者とあまり変わらないが、残念なことに文才のない所だけが違っている。これは諦める他はあるまい。それにしても、こんなに愉しく面白い本が、地方の本屋にならんでいないのが残念でならない。

熊本電友アルコウ会のこと

5421 本田誠也

熊本電友アルコウ会とは、NTTのOB組織、即ち退職者のサークルで、正しくは九州電電同友会熊本支部に所属するサークルの名称です。私は、昭和58年に電電公社を退職しましたが、すぐ退職者の組織である電友会に加入しました。そして、幾つかのサークルの中でアルコウ会に入ったのです。それは、在職中に職場山岳会を組織し、また日本山岳会に入会して登山を続けていたからです。厳密に云えば、アルコウ会は登山団体ではありません。同好会のようなもので、会員の懇親交流と、中高年の健康増進をはかることを目的としているのです。

必ずしも山には登らないが、車社会の現在では集団で歩けるのは山しかないの です。ほどなく私が世話役になった頃から、皆の希望もあり、山歩きが多くなり ました。いま130名ほどの会員がいますが、平均年齢67~8才とかなり高齢 です。いま日本全国でも、登山を志向する中高年はかなり多いようです。若い頃 本格的な登山をしていた人たちも定年後、夢を再び…と、登山を再開するケース もあります。アルコウ会では毎年6回、奇数月に例会を実施しています。今年は アルコウ会設立25周年目で、例会数も150回の大台に乗ることになります。 このほかに、特別例会として毎年1回、富士山や北アルプスなどの高山(木曽御 岳、乗鞍岳、加賀白山、尾瀬、蓼科山ほか)に登っていますが、毎回40数名の 参加者がおり盛会です。日本山岳会の目的として《…知識の普及及び健全な登山 指導、奨励をなし…》とあります。そのこともあり、また職場山岳会時代、職場 の人々に迷惑をかけたことへの恩返しのつもりで、お世話をさせていただいてい ると思っています。とはいえ、世話役の私たちも年々加齢してゆくわけで、中高 年団体の運営は、気の合った仲間だけの気儘な登山とは異なり、なかなか難しい ものがあります。何よりもお互いの協力が肝要で、安全登山を心がけているとこ ろです。

会 員 近 況

名誉会員の**奥野正亥**さんは、今年は卒寿 90歳の賀寿です。会員一同心からご長 寿をお祝い申し上げます。支部の新年晩 餐会には『体調不良の為、残念ながら欠 席致します。皆様によろしく…』とお便 りがありました。ゆっくり休養されて、 お元気になられるよう祈っています。

奥野さんに次ぐ長老会員の宮崎豊喜さんも今年は81歳になられる。平成10年秋からフォレスト熊本(老保養)に入所されたので、新しい会員は知らない人が多いと思うが、古い時代の山と人とのユーモア溢れるお話が聞けないのはさびしい。

8395 大木野徳敏

昨年末、交通事故で負傷された松子夫人 と共に、菊南温泉病院でリハビリ中。 一日も早いご回復を祈っています。

8411 松本莞爾

『平成13年のインターハイが阿蘇山で 開催されるので、その準備のため多忙な 日々を過ごしています。特に大会コース となる根子岳や外輪山の道造りに追われ ています。多くの方々のご協力を頂きな がら頑張っていきたいと思います。』

10080 廣永峻一

2000年6月全国総合文化祭(制) 写調に調 8月 富士山、インターハイ(岐県) 槍ヶ岳 〜笠ヶ岳縦走

9月 蓼科山、美ヶ原、針/木岳 12月23日~2001年1月4日 はじめての海外登山 キリマンジャロ登頂に成功。 10751 深堀弘泰

『雑事に追われて山歩きができなくなり 数年が過ぎました。身体はブクブク太り 一寸した山歩きでも呼吸はハァハァ足は フラフラの状態です。元旦に金峰山に登りましたが、サルスベリで何度息を整え たかわかりません。山男にとって情ける たかとです。新年晩餐会に出て皆さないことです。新年晩餐会に出ていた 登山報告を聞き、話すことに内心忸怩た る思いです…』とお便りがあった。

※ 深堀さんは長崎での被爆者だが、現在は熊本県被爆者団体の会で相談所長と して頑張っておられます。 …本田・記

6659 田上敏行

『明けましておめでとうございのことをお迎えのことがいますとともできることがした。 ことが できません できません できません できません では もって のの目標 終した 関西 大田国 では がん も 昨年 5 月に チャ がら は がん と 山 が の 日 に チャ が が ら 息 ことが の ア T A 会長 に けん なりました い かりました い かり は い かりました い かりました い かり に かりました い かり に かりました い かりました い かりま い かりま に い かりま い かりま に い りょう に い りょう に い りゅう に い りょう に い りゅう に い りゅう に い り に い い り に い い り に い い い り に い り に い い り に い い り に い い り に い い り に い い り に い り

11119 後藤之俊

眼(納購) の悪化で、たまにマイペースで の山行をするのみです。世紀末の夏は、 大雪山(旭岳〜間宮岳〜北海岳〜白雲岳 〜赤岳〜銀泉台)を歩きました。

11856 太田章雄

支部の『県境の山』にはできるだけ参加しています。昨年11月には、四国八十八ヶ所の後半、44番~64番と68番69番を巡ってきました。本年中には結願する予定です。

9402 河上洋子

毎年、支部報に健筆をふるっていただいていた河上さん… 昨年末から左手の外科手術で入院されたが、現在は退院し術後の治療中とのこと。また左足の腱鞘炎?でよく歩けないので、当分山登りは無理、しかしアゴの方は大丈夫なので今夏のビールパーテイには出席したい…

10432 池崎浩一

『…昨年も50山を目標に登山を続けてきましたが、41山で終わりました。今年も50山を目標に登りたいと思います《夢を失う時初めて老いが始まる》と先哲は云っています。この言葉を胸に新しい年に立ち向かっていくつもりです。』

10921 中本 環

『大荒地野菊という草を御存知ですか…セイタカアワダチソウに似て しかしだいぶ小ぶりです。7月~8月ごろ空は地にムンムン群生しています。その草は実は食べることができるのです。ダンゴにして食べます… 55年前の昭和20年 栄養失調のタマキくんたち(小学2年生)が食べたのでした。昨年の夏 妻と作って食べました… 恩返しのつもりでした』

12909 永谷誠一

『お陰様で毎月2~3回の山行を重ね、他に遠征としては6月に東北の山旅(早池峰山、焼石岳、栗駒山)8月後半には孫も連れて南アルプスの鳳凰三山を縦走し、10月には30年振りで屋久島(黒味岳、宮ノ浦岳、永田岳)で遊び縄文杉周辺の様変わりに驚きました。特に嬉しかったのは、念願の霧立越につなぐ小岳

岳〜向坂山間の伐開作業が終了し、これにより平成10年に開通した黒峰〜小川岳ルートのトレッキングができたことです。本年は3月頃より向坂山〜三方山の作業に入り、緑川源流を囲むトレッキングルートの完成を目指します』

10233 吉田恒子

『多忙な毎日を送っております… まとまった休暇がとれず山行計画もできません。現在山登りは休眠中ですが。新年は何とか一つでも多く登りたいと思っております。』

会友 橋本岳範

『人吉高校山岳部を発足すべく、少ない休日を使って子供たちを山へ連れていっています。ゼロからのスタートですので備品が全くありません。余っている…お手持ちの古くなったキャンプや登山用具で、まだ使えるものがありましたら、どうか分けていただけませんか…』

京都支部 能田 成

『新しい世紀… 明るい展望はなかなか大変ですね。でも人類なんて所詮この程度のデキだと思い、変に片意地を張らずに、ノソノソと行く以外に途はない方ならでも駄目なら致し方ならで、山は高きのみが貴からずとは云え、昨年は三千メートルすら届かずとは些か無念。で、そちらの軌道修正プランのみは着々と進行中です。』

888 222

会務報告

- ◇第1回支部委員会·(新)时址結構發講
- (時)平成12年4月2日(日)
- (騙)熊本市国際交流会館
- (雌都)本田、田上、廣永、丸尾、西澤、 池崎、長田、(河田) 8名
- (腰)支部総会議案検討、役員選考、 支部報第10号発行

『県境の山』 4月特別例会の準備

- (新)日本山岳志の山の選定、執筆分担 資料収集
- ◇『県境の山』 4月特別例会
- (時)平成12年4月15日~16日
- (場所)球磨球上村場山『民宿・川原』

市房山(1722m) 登山 こっ岩で縦

(参緒)本田、田上、馬場夫妻、松本(党)藤木、馬場(博)廣永、鶴田、池崎

藤本、太田、加藤夫妻、菅、石井趺 (蘇瑟)斎藤、四手井、野村、能田夫妻、

- (騕)…別紙、『県境の山』記録…
- ◇平成12年度支部総会
- (畴)平成12年4月23日(日)
- (騙)熊本市大江町 NTT熊本会館
- (雌都) 本田、工藤、神谷、松本、門脇、鶴田、中村(恵) 馬場(博) 廣永、 池崎、藤本、太田、丸尾、長田、 加藤(功) 伴、菅、橋口、能田、

19名(無狀18名)

(腰)役員改選

支部長 工藤文昭(新)

副支部長 神谷平吉(再)

委員 廣永峻一(再) 太田章雄(新)

会計監事 藤本多加志(新)

顧 問 本田誠也

◇平成12年度通常総会(日本山岳会) (時)平成12年5月20日(土) (駅)頼軒代昭 東京グリーンホテル水道橋 (雌者)工藤支部長

◇『県境の山』 5月例会

(時)平成12年5月21日(日)

(퉮)三方山(1578m) 高岳(1563m) 椎矢峠、

(参輔)本田、藤本、太田、加藤夫妻、 田上(3人) 8名

(腰)…別紙、『県境の山』記録…

◇会員異動

復活 4439 菅 隆雄 転出 8727 今野善郎 退会 9939 樋口 格

◇第2回支部委員会・(新)田杣駐攤畚議

(時)平成12年6月25日(日)

(퉮)鱗肺 産業文化会館

(雌都) 工藤、神谷、田上、門脇、廣永、 太田、藤本、西澤、本田、 9名

(腰)平成12年度通常総会報告 夏季例会計画 8/27 強センターホテル予約 平成12年度全国支部懇談会(軌間第)

- (新) 日本山岳志の編集について
- ◇『県境の山』 7月例会
- (時)平成12年7月9日(日)
- (퉮)椎葉越1470m 烏帽子岳1692m 五勇山1662m
- (腰)…別紙、『県境の山』記録…

- ◇『県境の山』8月例会
- (時) 平成12年8月20日(日)
- (駅) 白鳥山(1639m) 御池(1545m)
- (翻) 本田、藤本、太田、
- (腰)…別紙『県境の山』記録…
- ◇夏季例会(山の映画とビールの夕べ)
- (時) 平成12年8月27日(日)
- (騸) 鱗状 熊本交通センターホテル

15名

3名

- (腰) 神谷副支部長の8mmビデオ作品上映。 秋の金峰山と駒返峠(かい塊つけた) 尾瀬(夏の駅い出) 雲仙岳樹氷 山旅
- ◇北九州支部設立総会
- (時) 平成12年9月2日~3日
- (퇢) 欄側剛藤町 国民宿舎『ひこさん』 英彦山(1200m) 登山
- (雌精) 工藤支部長、本田、丸尾、 3名
- (
 腰) 福岡支部から分離独立して25番目の支部として発足。本部から大塚会長、小倉副会長も臨席。
 - (5飜) 吉村健児氏(1輛腸) 日向祥剛氏
- ◇第17回全国支部懇談会(軌機部)
- (時) 平成12年9月16日~17日
- (퇢) 別府市『つるみ荘』 久住山(1787m) 中岳登山
- (参賭) 西澤、本田、田上、鶴田、菅、 伴、 6名
- (
 腰)16日の懇談会には全国から140 名余が参加して盛会。翌日は台風一過 の快晴に恵まれ100名余が久住山、 中岳に登り懇親を深めた。

- ◇『県境の山』 9 月例会
- (時) 平成12年9月24日(日)
- (퉮) 銚子笠(1489m) 不土野峠(1059m)
- (参緒) 本田、田上(3人) 丸尾、藤本、 太田、加藤(2人)、能田、石井(文) 松岡(2人) 13名
- (腰)…別紙『県境の山』記録…

◇新しく会友になりました。

橋本岳範 人吉市鬼木町(人結散韛) 中根俊雄 菊池郡西合志町(裕州KS號) 石井文雄 鹿本郡鹿本町(NTT-ME號) 加藤百合子 鹿本郡植木町(加藤金月の夫人) 松岡栄治 熊本市新南部(加藤金月の美兄) 松岡啓子 熊本市新南部(加藤会月の第)

- ◇『県境の山』10月例会
- (時) 平成12年10月15日(日)
- (騙) 江代山(1607m) 湯山峠(994m)
- (参賭)本田、田上(3人) 丸尾、池崎、藤本、太田、能田、 9名
- (腰)…別紙『県境の山』記録…
- ◇第16回宮崎ウエストン祭
- (時) 平成12年11月3日
- (騙) 宮崎県高千穂町三秀台
- (参賭) 佐藤、田上、丸尾、石井、4名
- ◇『県境の山』11月例会
- () 平成12年11月12日 (日)
- (馴) 小崎峠(1230m) 御岳(1320m)
- (夠緒)本田、池崎、藤本、加藤夫妻、 能田、 6名
- (腰)…別紙『県境の山』記録…

491 491 491 491

- ◇平成12年度年次晚餐会(技器(議))
- (時) 平成12年12月2日(土)
- (騸) 棘櫑腿 新高輪プリンスホテル
- (雌者) 工藤支部長 廣永峻一
- (腰) 皇太子殿下、橋本龍太郎会員はじめ610名の会員が出席。開宴に先立ち『西暦2000年記念写真展…心に映る山』および、フォーラム『世界最高峰への足跡』が開催された。
- ◇『県境の山』12月例会
- (時) 平成12年12月24日(日)
- (퉮) 大平林道・峠951m P.1952m P.1106.8m 県境線を縦走
- (豬) 本田
- (騕)…別紙『県境の山』記録…
- ◇新年晚餐会(21賦)
- (時) 平成13年1月14日(日)
- (騸) 鱗状 熊本交通センターホテル
- (腰)新世紀はじめの晩餐会に多くの会員 会友が参集。年末からキリマンジャロ に遠征した廣永会員のスライド映写も あり盛会。
- ◇『県境の山』1月例会
- (時) 平成13年1月28日(日)
- (퇢) 牧良山(990.5m) P.900m 横谷峠(666m)
- (参賭)本田、田上、丸尾、太田、能田、 加藤夫妻、松岡夫妻、 9名
- (腰)…別紙『県境の山』記録…

- ◇平成13年度支部事務局担当者会議
- (時) 平成13年2月24日~25日
- (場所) 東京都代田区 グリーンホテル 東京都代田区 日本山岳会ルーム
- (腰) シンボシュウム 『支部活動を語る』 事務局連絡会議
- ◇『県境の山』 2月例会
- (時) 平成13年2月25日(日)
- (퇢) 千本山(905.8m)
- (参輔)本田、池崎、石井、丸尾、太田、 菅、 計6名
- (腰)…別紙『県境の山』記録…
- ◇ (新) 日本山岳志の執筆について 熊本支部担当分については、下記の方々 に各山座毎、ランク別に執筆をお願いし ました。今後の予定としては、4月末ま でに調査、資料の収集を終わり5月より 執筆にかかり、10月末日までに支部事 務局へ提出して下さい。

₩ A, B, Cはランク別 本田誠也 (A)-1 (B)-1 (C)-12 計14座 田上敏行 (A)-2 (B)-2 (C)-7 計11座 工藤文昭 (A)-1 (C)-6計 7座 神谷平吉 (A)-1- 計 1座 (B)-1 (C)-2計 3座 西澤健一 (C)-2計 2座 中村恵二 (B)-1 (C)-9計10座 長田光義 池崎浩一 (C)-5計 5座 計 1座 出来田耕介 (C)-1(C)-3計 3座 丸尾龍一 (B)-1 (C)-2計 3座 河田博喜

(A)-5 (B)-6 (C)-56 計67度 ※A, Bランクについては写真、カム図

を添付して下さい。

熊本県境踏査記録

『県境の山』4月特別例会 …熊本・京都支部合同登山…

日 時 平成12年4月15日~16日

踏査区間(48) 蘇媒糖脉上州/宮鎭煕縣西米財/東洲郡縣州 奥球磨県立自然公園 市房山(1)1722m 二つ岩(1)1672m

参加者(蘇翰)斎藤惇生 四手井靖彦 野村誠人 能田 成 能田直子 (蘇茲)本田誠也 馬場 猛 馬場千代子 田上敏行 松本莞爾 藤木幸一 馬場博行 廣永峻一 鶴田佐知子 池崎浩一 藤本多加志 太田章雄 加藤功一 加藤百合子 菅 隆雄 (諡録)石井久夫 計22名

昨年、京都支部の能田会員が熊本大学理学部教授に就任された。それで斎藤前 会長のご助言もあり、熊本在住中は熊本支部会友になっていだだくことにした。

早速1月の新年晩餐会に出席されたが、席上、人吉在住の藤木会員から『県境の山』例会をかねて、能田会員の歓迎会をしたいと提案があった。3月例会として開催する予定だったが、年度末でもあり夫々日程の都合がつかず、4月に繰延べされた。予め、斎藤前会長にもご連絡をしていたが、能田夫人はじめ京都支部からの参加が見込まれることになり準備に弾みがついた。

4月15日、熊本空港に斎藤前会長はじめ京都支部の方々をお迎えした。空港から会員の車に分乗して砥用町経由、国道218号線で五家荘の二本杉峠へ。 雁俣山のカタクリの花を鑑賞する予定だったが、峠に着いたら生憎の雨。茶屋で 昼食をとりながら様子をみたが止みそうにない。茶屋のご主人の話では今年はま だ開花していないとのことで、登山は諦め五家荘の縦断にかかることにする。

国道218号線は、全線舗装されているが狭隘な箇所も多く、ガケ崩れで迂回する所もある。しかし、この道路が開通して以来、かっての秘境のイメージも薄れてきた。途中、五木村の子守歌公園で小憩し、水上村の湯山温泉に直行する。

民宿『川村』には、先行した藤木会員が準備を整えて待っていた。全員揃った ところで、名物の『猪鍋』を囲んで能田会員の歓迎会を開催する。春の山菜料理 と藤木会員提供の球磨焼酎の数々、熊本出身の斎藤前会長が出席されるとあって 参会者も多く、懇親、歓談の一夜を過ごした。

市房山は球磨郡随一の名山である。熊本県を代表する名山として推すひともいる。『日本百名山』の著者、深田久弥氏は、その後記に『九州は6座選んだが、ほかに由布山、市房山、桜島山が念頭にあった。いずれも個性のあるみごとな山である』と記している。このうち桜島山と由布山は登頂しているが、市房山は風雨のため杉並木の参道まで行って引き返している。即ち『登らない山は書かない…』ので深田氏の選に漏れた。

市房山は宮崎県との県境の山であるが 主登山口は市房神社がある熊本県側にあ るので、(新)日本山岳志は熊本支部で 担当することにしている。

8:00 市房山キャンプ場に車を置き祓川橋を渡り市房神社の参道を登る。

8:25 石鳥居が立つ二合目着。台風で倒れた夫婦杉の巨大な切株が痛ましい。

9:00 杉並木の参道から八丁坂の大石段を登りきると四合目、市房神社に着く。これから五合目(仏岩)、六合目(馬の背)を経て七合目までが、市房山登路の核心部である。文字通り木の根、岩の根を踏んで息もつかせぬ急坂が続く。

しかし、ツガ、ブナ、ヒメシャラなどの 樹相が美しい。九合目を越え低い灌木と スズタケ帯になると山頂も近い。

11:35 一等三角点がたつ広い山頂に着いた。期待していた展望は黄砂がかかって定かではない。思い思いの場所に腰を下ろして弁当の包みを開く。

今回のメンバーには、ヒマラヤ8000m 峰 登頂者が 2人(シシャパンマ8013m 蘇幹、チョーオユー 8153m 賜斬) もいるので、このお二人の 音頭で三角点標を囲み『今西コール』 12:30 鋸尾根の県境線を二つ岩まで縦走

する60歳代の青年部?10名を見送り 往路を下山する。ダブルストックの齋藤 前会長は、トップをきって快調に下られ たが、コースタイムは登りも下りも同じ 3時間だった。一方、60代の若者組を 主力とした縦走班は、鋸尾根11の岩峰 を駆け抜けて、土用木場谷(トヨウコハタニ)を 下り16:00 市房山キャンプ場で本隊と 合流した。 『県境の山』 5 月例会 平成 1 2 年 5 月 2 1 日 (日) 踏査区間(40)(41)精納・探納/宮崎県機制

三方山 AII 1577.5m 椎矢峠 高 岳 AII 1563.2m

参加者 本田、藤本、太田、加藤夫妻 田上(餰、躾、配) 計8名

1985年秋には、今西錦司先生を迎えて九州3支部50名が、この狭い山頂に溢れたことを思い出す。昼食の包みをあけたところで人声がして、叡一クンを先頭に田上ファミリーが後にする。登りた田上ファミリーが後にする。登らに展望のなりで車止めに着のの25分で車止めに出て少し椎葉側へ下り、高いでは、1950年である。

こちらも25分でヤブの中の三角点に 到着した。かっては、広い山頂一帯は見 事なブナの森だったが、台風被害で見る 影もない荒れように驚く。大国見へ続く 踏み分け道も定かではない。

ブナの倒木の陰に座して、涼風に吹かれ憩いの一刻を過ごす。燃えるような若葉の艶やかな色彩が美しい…

『県境の山』6月例会 日 時 昭和60年4月29日 踏査区間(41)(42)矢割・射/窩巣耕

国見岳(1)1739m 小国見岳・1708m 五勇岳・1662m (II)1644m 参加者 本田誠也

6月18日に予定していた6月例会が降雨のため中止になったので、この区間は14年前の古い記録を当てることにする。

向霧立越のこのルートは、今から60年程前までは上椎葉の人々にとつて唯一の交易または猟、薬草採集、ナバ取りなどの大事な生活道であった。私が初めて歩いた1952年頃にはまだ、ナバ取り小屋や憩い場などがあちこちに残されていたし、よく踏まれた駄道には何となく人の気配を感じたものであった。

熊本を7時に出発、事業所が閉鎖されて無人になった内大臣を経て、9時前には杉の木谷の登山口に着いた。スギ植林地のジグザグの急登を登り詰め上部の林道跡に出ると、小谷に水が流れプレハブの小屋が立っている。

大国見(おがみ) から東へのびる大尾根は、雷坂を分ける地蔵のオバネ付近まではゆつたりと広い。ブナ、シナノキ、ハリモミ、イタヤカエデ、サワフタギなど自然林の森である。4月も末だけれど山の春は未だ浅く、葉をすっかり落とした裸の梢を何の苦もなく通りなけた陽光は、隈無く林床に降り注ぎ明るい尾根道である。肩の水場から低い灌木林を縫って程なく九州脊梁の盟主、大国見の山頂に着いた。車止めから1時間40分であった。

今日は先がながい、Uターンするように水場まで引き返し、コンターライン沿いに駄道の跡を辿り小国見の鞍部に出た。ヤブが被り道肩が崩れ可なりの荒れようであった。小国見1708mの標高は、九州では貴重な高さだが何の変哲もない山頂。中ノ内谷を一瞥して先を

急ぐ。この辺り踏み跡が乱れ、ゴヨウ谷の源 頭に迷い込み小一時間を浪費してしまった。 かっての駄道も通行されなくなって踏み跡も 微かになり、うっかりするとすぐ踏み外して しまう。13時、五勇山の岩頭に立ち久しぶ りで脊梁の主脈と尾手納の村を見渡した。 三角点は西へ10分ほど小さなコブを二つ越 したヤブの中にあつたが、展望はまつたくな い。帰路は大国見の水場まで迷わずに快調に とばす。約1時間半、それから杉ノ木谷の車 止めまで1時間の下りであった。但し小国見 の東側を通る時─寸したハプニングがあった。 それは、往路で私が迷った辺りでヤブ分けを する人声を聞いた。コールをかけたらごそご そとヤブから出てきたが、4人もいたので驚 いた。あとで『マイカーで行く九州百山峰』 の著者、渡部さんの一行であると知った。 もっとも、この時にはベストセラーになった 本はまだ出版されていなかったが… (細・記) ※『マイカーで行く九州百山峰』渡部智倶人…昭和61年11月初版発行

(国見岳~五勇山縦走記録)

1954.5.5 九州電通山岳会(本田、竹崎、大 木野、太田) 4名 市房山から不 土野峠、銚子笠、県分越、白鳥山 尾手納を経て五勇山、国見岳、広 河原、津留越まで歩く。

1963. 5.1 熊本日日新聞社九州脊梁学術調査 (本田 藤本、西岡、浜田、平山 石本、谷口) 7名 椎矢峠、広河 原、国見岳、小国見岳を経て縦走 さらに尾手納、県分越、不土野、 不土野峠、平畑、古屋敷、朴の木 原、江代山、湯山峠を経て市房山 に至る。 『県境の山』7月例会

椎葉越1470m · 1491m · 1548m

- · 1617m 烏帽子岳 △ 1 1692m
- ・1654m 五勇山・1662m

(踏査) 本田 西澤 菅 田上 藤本 中村 丸尾 加藤(炉、 品子) 石井

早朝7時に五家荘北端の二本杉に参加 者10名(1鰤5台)が集合した。早速、車 を連ねて谷内川に沿い国道 445号線を南 下する。下屋敷から道路工事のため樅木 への迂回路に入る。樅木八八重から舗装 された椎葉への峰越林道を幾つもの大き なカーブを描きながら上る。椎葉越への 登山口1420m に車を置き、峰越林道の峠 まで往復する。峠にいた人から一時間程 前にマイクロバスで来た登山グループが 鳥帽子岳に向かったとの情報を得た。 椎葉越への登山道入り口にも北九州ナン バーの車が一台駐車していた。今日の鳥 帽子岳は賑わいそうだと、9:05 椎葉越 の笠道に足を踏み入れた。9:20 苔蒸し ▶ た積石がある峠1470m に着いた。椎葉側 は深いスズの中を細々と道が下っている 9:30 自然林の県境稜線を北上する。 尾根のスズを切り分けた踏み分け道だが ブナやカエデ、ドウダンツツジ、ツガ、 ホオノキ、ヒメシャラなどの美しい森が 続く。10:00 岩稜の急坂を登って展望の よい1491m ピークについて一息入れる。 南へのびる県境尾根の先に白鳥山の大き な山体と、左手に舟を伏せたような時雨 岳。東側眼下に上椎葉の尾手納の家々が 小さい。地図上の1548m 標高点は知らぬ 間に通過して 10:50 西方の栗野へ尾根 を分ける 1617㎜標高点に着く。森の王の ような見事なブナの大樹の下で、菓子や キャンディを分け合って小憩。コバイケ イソウの白い花を見つけながら鞍部に下 り、密生したスズの急斜面をひと登りで 鳥帽子本峰の分岐に出る。左へ僅かな登 りでドウダンツツジに覆われた最高点。 西へ少し下り、岩塊を伝い一投足で熊本 県側にある三等三角点の山頂につく。 11:50~12:35 木陰に座り込んで、ゆっく り昼食をとる。山頂の西面一帯は九州で も最大規模のシャクナゲの純林。花期に ぜひ再訪したいところである。余力のあ る50才台の少年隊?4名(爐、研、毗、娓) は五勇山までの県境線をトレースしよう と東へ向けて出発する。よく切り分けら れたトレイルを、きっかり2時間で往復 する。五勇山頂近くで加藤会員は、オオ ヤマレンゲの残花を見つけ驚喜する一幕 もあった。一方、やや遅れた熟年組2人 も無事、烏帽子岳登頂を果たした。しか し復路の途中で少年隊に追い付かれ、タ イムリミットの17時をやや過ぎて下山 してきた。今回は完全に県境線を歩いた が、歩行時間8時間はこれまでの最長。 よく歩いたと全員の一致した感想であっ た。なお、地図上の椎葉越の峠について 『九州百山峰』の渡部さんは五家越と記 載し…古くから椎葉越、五家越、椎葉村 日添から僧侶を送迎していたので別名坊 主越と呼ばれ、生活往還路であった…と 書いている。しかし、私がかって樅木で 聞いたのは那須越、ボンサン道であった と記憶している。 (本田・記)

『県境の山』 8月例会

平成12年8月20日(日) 踏査区間(44)燃料財/熔料 白鳥山(I)1638.8m 御池 1545m (踏査)本田 藤本 太田

天気予報は終日、雨。しかし、宮崎5時 側は降水確率 20%ということで見ります。 とでしていることでしているとの に熊本市の自宅を出たませいのはいままがです。 を出たがそれたがそれたがそれがでいる。 ではいますがでいる。 がでいるを に入りている。 がでいるがでいる。 ではいまがでいる。 ではいまがでいる。 ではいまがでいる。 ではいまがでいる。 ではいまがでいる。 ではいまができまずである。 ではいまができまずである。 ではいますができまずである。 ではいますができまずである。 ではいますができまずである。 ではいますができます。 ではいますができます。 ではいますができます。 でいたが、 でいが、 でいたが、 でいが、 でいたが、 でいが、 でいたが、 でいが、

装備ながら足取りも軽くなる。約20分で 小渓流を溜めた細やかな水場。そのまま 登り詰めて 10:20 白鳥山三角点到着。 少し早いが雨も止んだので2等三角点の 標石を囲んで第一昼食とする。山頂に集 まるトレイルは今登ってきた御池ルート を含めて4本。県境線添いに県分越に下 るもの、南西に泉村と水上村の村境尾根 のルート、そして西側のウゲトウ谷への ルートである。10:45 西側斜面のキレンテショ ウマを目指して山頂をあとにする。とんと んと下っていたら、ルートを誤り再度登 りかえして今度は御池への分岐を通り過 ぎ、ウエノウチ谷へ入ってしまった。折 よく登ってきた天草のグループと御池の 湿原を経て石灰岩の露頭まで行く。ここ には『熊本自然を愛する会』の登山ツアー のグループが屯して昼飯を執っていた。 雨中ながら今日の御池平は大賑いだ。キレ ンケショウマは諦めて、また降りだした雨の中 を下山する。 (相・記)

白鳥山の山名について ・・・ なぜか地図には山名の記載がない。しかし、古くは天草代官所の役人、村次勇八郎の『肥後国五ヶ荘図志』によると・・・ 白鳥山は五ヶ庄第一の高山にて住古落人の陽れ住みし煙なるよし。 概木村の歯にして登り門里の大難所。 道もなく鳥も通い舞き舞所とて登るもの希なり。 弘化元年(1844) 辰年、徳田吉右衛門登山するに・・・ 云々とある。 既に五家荘では白鳥山と呼んでいたようだ。 だが昭和7年6月刊の北田正三著「九州の山々」では配後岳となっている。 戦前の昭和11年に刊行された朋文堂の『九州山岳』では配後岳となっている。 戦前の昭和11年に刊行された朋文堂の『九州山岳』では吉村毅、加藤敷功、長澤信治等の記録では白鳥山とされている。 職後、昭和30年代から40年代にかけて九州の登山ガイドのバイブルとして愛用された、しんつくし山岳会の『九州の山』でも白鳥山となっている。 山名の由来は平家落人伝説に因むが、平重盛所有の『白鳥毛之館』をこの山に落ち延びた三男の左中将平清経が受け継いだことによる・・が通説となっている。 山頂部を形成する広く平坦なな 『御神平』があることから、概木や尾手軸の地元では『オミイケサン』の愛称で呼んで人も多いと云う。

銚子笠は九州脊梁山地南部の県境線(鱗幌/宮 (44) 単にある。かっては踏跡さえもない最も 近寄り難い山であったが、南の不土野峠側か ▶ ら林道が新設され、横才川上流の鍵掛林道を 経て梅の木鶴方面へ延びるようになったので 容易に接近できるようになった。今回は早朝 5時に熊本市を出発し、九州自動車道・人吉 ICを経由して7時半、水上村役場に着き参加 者全員と合流した。8時15分、自動車5台 を連ねて市房ダム湖沿いの県道142 号線を北 上し古屋敷へ向かう。8時半、古屋敷着。 祝日の早朝だが、この山間の小集落は小学校 の運動会で人通りが多く賑わっている。 片地から横才林道に入ろうとしたが『ガケ崩 れのため約7.5km 先で不通』との立札があり 引き返す。東側の白水阿蘇神社に立ち寄り、 林道走行の準備をして標高差700mの不士野峠 へ向かう。魚帰川に沿う舗装道路をいっきに 上がり不土野峠に着いた。かっては旅人を休 ませた茶店もあった峠だが、今は何の風情も ない。峠の西側から、県境線にそって北上す る新設の林道に車を乗り入れた。砂利敷の林 道を5キロほど進んだあたりで舗装道路とな り、やがて施錠されたゲートが通行を遮る。 10時過ぎ、道脇に車を置いて右手の狭い林 道を登る。銚子笠西尾根の斜面はヒノキの造 林地で、アカマツやカラマツも混じる。路面 に赤いチャートの細片が目立つ。西へ廻りこ んだガケ下に赤いテープの目印が着けられて

いるので、そこから自然林の広い斜面に取り 付く。脊梁名物のスズもなく歩き易い。

11時25分、車止めから50分で円形に切り開かれ3等三角点が置かれた銚子笠1489mの山頂に着いた。先ずは三角点を囲んで『今西コール』のセレモニー。秋の強い日ざしを避けてミズナラ、ヒメシャラなどの木陰で昼食の包みを開いた。銚子笠の山名については『みやざき百山』の著者、大谷さんは…銚子とは広辞苑によると、酒を盃に注ぎ移すのに用いる器で柄を長くしたもの…とある。

見上げると、銚子を伏せた笠状の山が長く延び『かぶり笠』に似ていることからの山名に違いない…と述べている。また『ちょうすのかさ』と宮崎側の山麓、不土野の人たちは呼んでいる、とも云っている。私(細)が1954年5月に九州脊梁山地を市房山から北へ縦走したとき、平畑(たいらば)の永田さんに尋ねると『ちょうすんがさ』と呼んどります…とのことであったが、椎葉の人たちの呼びかたの方が優雅に聞こえるようだ。

道のない山で、かっては濃密なスズタケを漕いで悲鳴をあげた記憶がある。県境稜線は南北とも切り分けがあるが、あまり人が入らないと見えて踏み跡も定かではない。最近は北の白鳥山から往復する人もいるそうだが、約7時間はかかる長丁場である。不土野峠から西尾根を越えて林道が延びた現在は、これが時間的にも最短コースであろう。

下山は、南へ切り分けられた県境線を歩いて 林道に出た。ゲートへ下り車に乗って往路を バックして不土野峠へ…ついでに次回の小崎 峠のルート偵察のため、県道川の口線が県境 を越える峠まで行く。峠(約1150m)から南へ県 境線の切り分けを確認して引き返した。

(細·記)

『県境の山』 10月例会
平成12年10月15日(日)
区間番号(47)転線比州/部線機制
工代山(網話) AI 1606.7m … 加幅配場…
湯山峠(脳388線)・994m
参加者 本田 田上(新、辞、紀)丸尾 太田
池崎 藤本 能田(嘉慈)

人吉盆地から眺めると、江代山(えばがま)は富士形の秀麗な山容を見せる。しかし南側に隣接して南九州随一の名峰・市房山があるために、いつも脇役に甘んじているようだ。県北部から始めた県境の山も、これから県南部に移ってゆくが江代山以後は1600mを越える高峰はない。水上村の江代地区にあるので『江代山』と呼ばれるが、椎葉村側では『津野岳』と呼んでいると云う。北から南へ県境線が走る西面の朴の木原(ようの部る)側は、皆伐され植林地となっている。対して東側の山腹一帯は『九州大学演習林』になっているため手つかずの自然林が残されている。

今回は、湯山峠から県境の境川をこえて椎葉 村に入り、矢立川を渡ってセンツキ谷に沿う 林道に車を乗り入れた。使われなくなって久 しい林道は、路面が荒れ草が被り通り難い。 林道終点近くの広場に車を止めて歩き出す。 平坦な林道跡の草を分けて暫く行き、深いス ズの中の細い山道を登る。約30分で湯山峠か らの切り分け道(巡視道)に出る。ここは地 図上では 1206m標高点。この上部で谷を渡り 台地状の杉林の中に入る。家ほどの巨岩がい くつか並ぶ中を北上する。涸谷が出合う扇状 地のような広場に出て汗を拭う。ツガ、ミズ ナラ、カエデなどの自然林がたち気持ちのよ い所だ。ここからよく踏まれた山道を急登し て高度をあげる。南へ大きく廻りこむと帯状 に切り分けられた県境稜線の鞍部に出た。山 頂までは更に10分、一直線の登りである。

久しぶりの山頂は、西側に高い気象観測用 (アメタス)の鉄塔がたち、直下に林道が迫ってき て大きく様変わりしていた。丁度12時に着 いたが登り1時間50分。しかし下りも同じ時 間だった。鉄塔の西側はテラス状に切り開か れ、下の林道までは建設資材運搬用のリフト の鉄塔がいくつか残されていた。眼前に広が る奥球磨の山々を眺めながら、昼食の弁当を 食う。ここから見る県境稜線はアップダウン も大きく、屈曲も多い複雑な地形である。 夫々、不土野峠、銚子笠、白鳥山と指呼しな がら山岳同定を楽しむ。13時、2等三角点 に別れを告げて山頂をあとにする。帰路は北 側の鞍部に下り、山頂部の東側をトラバース して南の鞍部に出るコースを選んだ。結果は 岩壁の基部を巻く難路で、崩壊や倒木も多く 既に廃道になっていることを確認した。往路 をバックして14時55分、林道終点の車止めに 帰り着いた。江代山の登路について最近のガ イドブックでは、西側の『朴の木原』から林 道を歩き南側の県境稜線に出るコースを選ん でいるものが多い。利点は球磨山地の展望が よいということだが、植林が成育すると視界 が狭まる恐れがある。その点、宮崎県側(東 側)は九州大学の演習林になっているため、 自然林が残り展望には恵まれないが、落ち着 いた静かな山歩きを楽しめる。敢えてベスト コースを挙げるなら、今回の矢立林道より湯 山峠から演習林の巡視道を歩いた方が距離的 にも時間的にもよいように思う。

『県境の山』も 47/68区間で 69%を消化? した。しかし、残りの 1/3が難物である。県 南部に入り、夫々の区間までの往復が長距離 長時間となり、交通費などの経済的負担も大 きい。そのうえ県境部も山の稜線ばかりでは なく、渓谷が県境線となったり、また渓谷を 渡り、峠を越えたりと複雑な様相を呈する。 今からが正念場と云うところか… (細・記)

『県境の山』11月例会

日時 平成12年11月12日(日) 区間 (46)繁集計構工/宮崎県機業材が崎

• 1234m 御岳(崎山)AI 1319.5m AI 1266.4m 小崎峠 約1230m 参加者 本田、池崎、藤本、加藤(2人) 能田(京歓部)

県南部の山は長距離になるので朝が早 い。いつも6時に熊本を出発する。その うえ高速道路を利用するので経費の負担 もかさむ。参加者は九州自動車道の宮原 SAで合流し夫々朝食を食べて出発する。 予定通り9時に水上村役場に到着し、全 員揃ったところで、県道 142号線を市房 ダム湖沿いに古屋敷経由で北上する。 平畑上部で右へ分岐する林道(黻)に入り 県境線沿いに南下する。9時55分、椎 葉側の村道『川の口上線』に接続する峠 (約1180m)に着いた。峠から南へ県境稜線 を挟んで西側には私有林道、東側は既に 廃道(蜙ヒホセネネネホイトルム) になっている林道が 分岐している。10:05 中央の県境稜線を 登る。右手の熊本県側はヒノキの植林地 ▶ 左の宮崎県側はナラなどの自然林。10 分ほどで台地状の鞍部に着いたが、九電 の反射板(1996.1)が2基立っていた。 土塁状の県境稜線はススキが茂って歩き にくい。10:30 1234m 標高点(隣点) を通 過し、ますます歩き難くなるが10月29日 に先行した田上パーテイが要所々々に赤 テープをつけてくれたので助かった。 10:45 三等三角点がおかれた御岳(崎山) の山頂に着いた。南方に小崎川の深い切 れ込みを隔てて、長大な江代山の山頂稜

と馬口岳(1435m) が大きく迫る。因に山 名の御岳は、北田正三著『九州の山々』 (昭和7年 朋文堂刊行)によると…平畑を発して山口末蔵(猟師) 案内となり、御岳を目標として溪谷を東に登る。二時間半の苦しい森林をあえぎ 登行して漸く1319米の側に達す。…とある。地図には 山名の記載がないので、先行した田上班 が『小崎山』と仮称したが最年少会友の 叡一君に敬意を表して、これでもよいか と考えている。11:10~11:50 峠の駐車場 に下り着く。昼食後、二手にわかれて小 崎峠へ向かう。加藤、能田、藤本はその まま県境稜線を北上し、本田、池崎の二 人は『村道川の口上線』の屈曲点まで下 り、荒れた林道を経由して急峻な北尾根 末端から登る。その結果、加藤班は25 分で 1266.4mの三等三角点ピークに到着 したのに、池崎班は55分もかかった。 加藤班は地図上の小崎峠(約1190m)を往復 したが、北から新しい林道(未織)が造成 されていることを確認した。また池崎班 は、北へ延びる尾根の中間で既に廃道に なっている小崎峠を越えた。緩い鞍部に 開けた平地には、かって小屋でもたって いたのか茶碗の欠片や板切れなどが散ら ばっていた。14:25 峠の駐車場に帰着。 帰路は『村道川の口上線』を下り、国道 265号線にでて上椎葉ダム湖を半周し、 秋祭りで賑わう上椎葉を通過する。 今回は、予定通り小崎峠から御岳へいた る県境稜線を完全にトレースすることが できて幸いであった。今後折があれば朴 の木原から、かって果たせなかった津野 越(1250m) の古道を訪ねて見たいと考え ている。まだ自然林が多く残されている 小崎川原流部の測行も面白いのではない かと思う。 (本田・記)

『県境の山』12月例会

平成12年12月24日(日) 踏査区間(49-1)鮴駅 州/宮嶼 所財 大平林道・峠 951m P.1052m P.1106.8m(三触) (踏査) 本田

区間番号(49)は、市房山から南西に延びる 県境尾根で・1243m~・1049m~・1086m~・951m(坪 檤)~·1052m標高点で北西へ直角に折れ △1106 . 8m 三角点~・1092m~・994m を経て牧良山(誌) (柱)4990.5mにいたる延べ8.5Km のコースであ る。この県境尾根は殆どトレイルがないと見 て、踏査は広域基幹林道(上粮~坪)線の峠(951 m)から 1106.8m三角点までトレースし、牧良 山は湯前町浅鹿野から牧良川を溯行する牧良 林道経由で登る予定をたてた。12月例会予定 の17日が降雨のため中止になったが、今日は 天気が回復したので下見のつもりで本田が一 人で行くことにした。9:30 熊本発。松橋IC より人吉ICまで九州自動車道を経由し 11:40 市房キャンプ場570mに着いた。そのまま広 域基幹林道(上粮~坪)に車を乗り入れる。市房 神社分岐までは舗装されているが、その先は 未舗装道となる。しばらくは山腹をまいて行 くので眼下に広がる湯山台地の展望がよい。 約1 Kmの道脇に湯山温泉基地局(DO CO MO)の 高いアンテナがたっている。途中、大規模な 伐採跡があり崩壊して土砂が押し出した箇所 もあり慎重にハンドルを操作する。林道は地 図とは違い県境尾根の峠を越えて宮崎県の西 米良村へ通じていた。ここにいたるまでの林 道両側の山林には『大平(2) 神宮司庁 瞬38

~75年間機勢…』の標板がたてられていた。県界 の峠には『広域基幹林道 上米良~大平線 貫通記念碑 〒10年7月1世』があり、宮崎県側に は『これより宮崎県西米良村27Km この躑は驟帆 より通り抜けできません』と書かれた標識があった。 12:40 県境尾根を南下し 1106.8m三角点まで の縦走にかかる。案じていた通り道はなく、 県境稜線沿いの微かな踏み跡を辿る。所々に 黄色いブラスチックの標柱が埋められている。 見ると『伊勢神宮』の刻字があり、このあた りは神宮ご遷宮用材の山林なのかと推測する。 県境稜線の熊本側は灌木林、宮崎側はヒノキ 造林地となっている。13:00 三角形の台地状 のピーク 1051mに着いた。ここから尾根は西 へ向きを変える。このあたりからヤブ分けが 多くなる。幸い天気がよいのでルートファイ ディングに気を使うこともない。しかし、い つの間にか尾根が北西に折れ、三角点ピーク を通過して 1092m標高点にきてしまったよう だ。三角形の広い山頂台地の中央に『山 三 0』の標石が鎮座していた。このあたり県界 線沿いに『シシ除け』のネットが張られてい る。北西方向に牧良山の特徴ある尖峰を確認 して 13:50 往路をバックする。1106.8m 三 角点付近はヤブが被っていて、三角点標石を 発見できなかった。帰路は進行方向に市房山 の圧倒的に膨大な山体と、遠く江代山や五家 荘、椎葉の山々を眺めることができた。 14:45 大平林道の峠に帰り着いた。ここから の市房山の南西面はすごい迫力だ。山頂部は 霧氷で幾分白いが、山腹までの広大な斜面は 西日を浴びて金色に輝き素晴らしい眺めだ。 15:00 牧良山を残したが、満ち足りた気分で 峠をあとにして下山する。 (細·記)

『県境の山』1月例会

平成13年1月28日(日) 踏查区間(49)(50)蘇縣州·蘭蘭/宮嶼縣朝 牧良山(まもやま)A 990.5m 横谷峠 ® 665.5m • 900m 参加者 本田誠也 田上敏行 丸尾龍一 太田章雄 加藤功一 能田 成 加藤百合子 松岡栄治•啓子

長期予報では暖冬と云っていたのに、 1月下旬になって日本列島は寒波に襲われた。東の間の小康日に今年最初の例会を決行した。県南部の山々も 1000m以上は白い雪の衣をまとっていた。湯前町に入って、新年の干支に所縁がある『龍神ハナグリ石神社』に立ち寄り安全祈願。 ここでパーテイを二つに分けて先月、

三角点を発見することができなかった牧 良山に探索班を出すことにした。四輪駆 動車に乗った丸尾、田上、能田がそのま ま林道(惣徽)を上がる。他は国道219 号線の旧道から県境の横谷峠に上がる。 峠下に、新道『横谷トンネル』が開通し て横谷集落は一気に過疎化が進んだ。廃 屋だけがやけに目立つ。今は、一人暮ら しのお婆さんをいれても人が住んでいる 家は3軒しかない。そのうちの一軒は、 なんと民宿『砂は黄金』?だった。 民宿前に車を置き、道を教わって急斜面 を登る。地図に、Fが記載されているが 今はお参りする人もいないのか、深い落 葉に埋められた木段の上に小祠が三つ並 んでいた。そのうちの一つは大山祗神、 そしていま一つは『源之進大明神』と記 名されていた。県境標識を探しながら広 い尾根上の踏跡を辿る。20分ほどで尾 根を広く切り開いた台地に着いた。 峠のお婆さんが言っていた送電線の鉄塔 が立っている。標板に『九電・人吉幹線 79』とあった。空が晴れて展望も開け るが風が冷たい。尾根筋の宮崎側はヒノ キ、スギの植林、熊本側は自然林。その 境目に沿って登るが踏跡はない。灌木の 間を一登りで、低い土盛りの上に『山』 標石がある山頂(900m)に着いた。枯れ草 の上に座り込んでランチタイム。携帯電 話で牧良山パーテイと交信するが、まだ 三角点探索中と云う。昼食後、全くトレ イルが消えた県境尾根を北へ向かう。 台地のように広がった尾根を、境石標を 探しながらダラダラと下る。約30分で 西から東へ尾根を越す林道に出た。ここ から林道は『私設黒仁田林道』となって 西米良村の黒仁田へ下っている。眼前の 牧良山の稜線に向けて再度、携帯電話を 入れてみる。黒仁田から3人の登山者が 登って来たというが、三角点は不明とい う。舗装された林道を歩いて横谷峠へ向 かう。木の間越しに湯前町の家並が見え る。25分で峠に帰り着いた。



四868-86 無本果球康邦湯前可模容 四0966-43-3386

いけはらしんじ

『県境の山』 2月例会 平成13年2月25日(日) 踏査区間(52)(54)熊本県多良木町/宮崎県西米良村・須木村 千本山 AI 905.8m

御大師(株) 株川/桃川 蛤 県界 参加者 本田誠也、池崎浩一、石井久夫 丸尾龍一、太田章雄、菅 隆雄

いま『県境の山』は、熊本市から最遠 端になる県南東部の山々を歩いている。 県内でも、最も登山者が少ない地域であ る。従って登山資料、記録なども少ない ので『肥後の山・675座・駆け歩き』 西 和文著(1998.6.10 新)を珍重してい る。但し、この記録は、地図に山名の記 載がある山だけのようなので、今回の2 月例会では前回の横谷峠から、千本山ま での区間は割愛した。交通路の都合で、 熊本から人吉までは九州自動車道を利用 する。午前9時に参加者は山江PAに集 合する。人吉ICの出口で待ち合わせる 石井さんと合流して、球磨川右岸の台地 を東上する広域農道を行く。途中で右折 して球磨川を渡り、多良木町中心部を経 由して、県道 144号線で槻木峠750mを越 え槻木川に沿って下る。槻木川は綾北川 の支流で、その吐合いが県界になってい る。槻木の中心地、吐合から県道 143号 線にかわり約 5Kmで小学校がある下槻木 に着く。左折して永原谷に入り約 2Kmで 千本山への林道を分ける。…と書けば、 すんなりと行ったようだが実は、この分 岐451m点が分からず永原林道を上流まで 行き過ぎたりして時間をとられた。この 辺り過疎化が進んでいるようで廃屋が目, 立つ。一軒家の下を通り、未舗装の林道

に入る。反転するような大きな屈曲を4 回繰り返した辺りで、鹿が2頭、車の前 を走り抜けびっくりした。その上部で老 人夫婦が、椎茸を軽四輪トラックに積み 込んでいるのに出会った。その黒木さん の話では、鹿の食害に困っているとのこ とであった。林道の路面は益々悪くなり ついに沢の詰めでストップする。車を置 いて、南側の尾根へ上がる林道を歩く。 北から南へ大きく反転して815mの尾根の 頭を越えると、程なく林道終点。ここま で45分かかった。枯草の上に座ってラン チタイムとする。微かな踏跡を探しなが ら山頂を目指す。頂上直下の鞍部に出る と、地図にない林道があり驚いた。西米 良村側から上がってきているようで県境 線の西側を巻いて造成中であった。再度 ヤブ分けして山頂へ。約10分で(13:20) 展望のない千本山 905.8m の山頂に着い た。ヒノキ(醂)の混交林で、大きなツガ などもある。県境線を見透してみたが全 く踏跡もない。(13:30) 急峻な西尾根を 下る。やがて僅かな踏跡も消え、木の根 を掴み滑るようにして水流のある小谷に 下り着いた。砂防ダムを乗り越え古い作 業道に出ると、数分で車を置いた林道に 出た。きっかり一時間の下りであった。

永原谷から県道 144号線に出て、綾北川の県界へ車を走らせる。途中、御大師の大師堂に立ち寄り天然記念物の高野槇(コウヤマキ)と、銀杏(イチョウ)の大樹を見る。

県界の橋には何の表示もないので、通り過ぎてしまう。須木村田代ヶ八重の猿の谷橋まで来て、慌てて引き返した。なお、高原町の石井さんとは、ここで別れた。後は、長い往路を引き返す。(細・記)

平成13年度『県境の山』例会計画

### ### ### ### #### #### ###########	<u> </u>
4/15 規 木 A 721m ~須木村第700m~白水谷社合522m ~岩瀬川山	IBO 1 0
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	₹#OIZIII ~
田代ケ八重 球磨郡上村/えびの市領木村・原 ~小幕市 ~えびの市~八ケ峰社合434m ~岩井谷町	t合421m ~
	t合493m ∼
又五郎谷吐合514m~陀来水谷吐合~温泊峠900m~上村覆田~	・劉町~人吉
5/13 白髪岳 58 人吉市・劉/えびの人吉~風味 8698m ~えびの市五日市 ~万年青平739m~	·∆ 947m~
肥後大畑 59 市 瓦酪出合~狗留孫神社 680m~万年青平~五日市 ~	坂元~ 割~
735m~ A 728.8m ~五日市 ~人吉	
6/17 肥後大畑 60 人志市/えびの市 人志~JR矢岳駅548m~えびの市黒6~4742.6m	~∆751.5
m ~ JR矢岳駅 ~ △840.8m ~ ·819m(県界)~人吉	
7/29 大塚 61 人吉市/えびの市 人吉~大塚~桑木津智県界~A712.5m(開展ケ平) ~大塚~	哪町 ~火七
62 人吉市/大口市 # # # # # # # # # # # # # # # # # # #	
8/19 大塚 63 人 結	877m~球磨
一勝地 城磨村/大口市 村俣口 ~遠原県界~那良口 ~-勝地	
9/9 大関山 64	969.3m \sim
一勝地 - 里山 ~毎味~那良口 ~一勝地	
10/21 山 野 65	1~山鳩 □
472m~A 565m~五女枚場 ~A 564.9m~亀齢	岐 棒 💵 578
. 5m ~石板川 ~ 水俣	
11/25 湯 出 67 水保市/大口市 水保~湯出~頭石~県界(開拓)480m~A 626.9m~頭石	~無線山
水俣市/出水市 △Ⅲ 664m ~頭石~水俣	
12/9 湯 出 68	687m~境川
米ノ津	
鹿児島県出水市堺町	

後 記 私が熊本県境の山を歩こうと思ったのは随分昔のことである。昭和29年 (1954) 5月に、初めて九州脊梁山脈の市房山から国見岳(おがみ) まで縦走した。熊本県と宮崎県の県境線を歩いたのだが、幾つかの峠、ピークを越えて手強いヤブを漕ぎまた意外に踏み慣らされた駄道を辿り、脊梁の山々の味いを堪能した。脊梁の盟主、大国見の山頂に立って、延々と連なる県境の山々を見渡した時、いつかはこれを歩いてみたいと思ったものである。しかし、それは約30年間待たなければならなかった。昭和58年にリタイヤ後、思い立って一人で荒尾海岸から歩き始めた。だが4年後闘病中の妻が亡くなり中止した。その後、支部報第9号に書いたように、支部設立45周年の記念行事として実施することになった。北から始めて、いま県南の球磨郡に入っている。当初、県境線をトレースする予定が、トーンダウンして県境の山に登ることになった。お蔭で年内に終わる見通しがついたが、楽しく歩いています。 (本職・記)